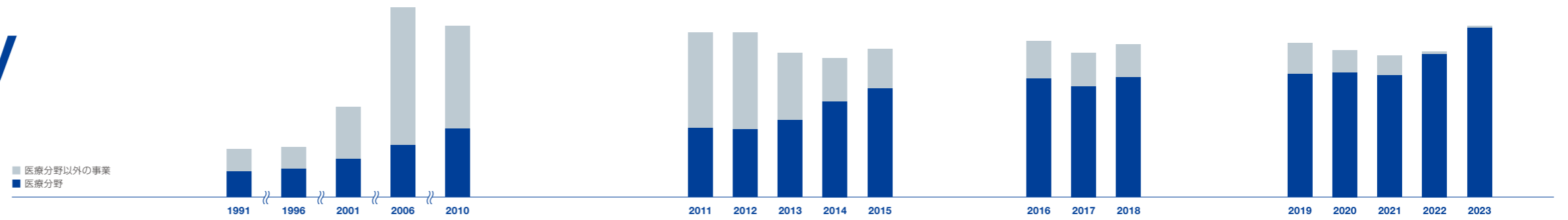


Overview

Our History

売上高の推移

(注) 2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
2020年3月期および2021年3月期は映像事業、2022年3月期および2023年3月期は科学事業の売上高を除く継続事業の金額を表示しています。



1919年～1950年代 創業と経営近代化への道
1960年～1980年代 光学総合メーカーへの発展、海外販売拠点の拡充
1990年～2010年 医療分野の多角化
2011年～2015年 原点回帰と医療分野へのリソースシフト
2016年～2018年 経営再建ステージから持続的発展ステージへ
2019年～ 真のグローバル・メドテックカンパニーへ

- 1919 「株式会社高千穂製作所」として創立(顕微鏡の国産化を目的)
- 1921 商標を「オリンパス」として登録
- 1936 当社初のカメラ「セミオリンパス」発売(カメラ事業に参入)
- 1949 社名を「オリンパス光学工業」と改称、東京証券取引所に株式上場

- 1964 欧州現地法人設立
- 1968 米国現地法人設立
- 1979 カリフォルニア州に米国拠点設立(現 北米最大の医療修理サービス拠点)
- 1989 中国北京市に駐在事務所、シンガポールに現地法人設立

- 2001 テルモ(株)と提携
- 2008 中国(上海)に初のトレーニングセンター設立、英国Gyrus Group PLC社を買収(医療分野における外科領域を強化)

- 2011 過去の損失計上の先送り発覚
- 2012 新経営体制が発足、ソニー(株)との業務・資本提携、情報通信事業を譲渡
- 2013 東京証券取引所による当社株式の「特設注意市場銘柄」の指定解除、海外市場での資金調達(約1,100億円)

- 2016 医療用内視鏡関連の開発・製造拠点(会津・白河・青森)を増強(新棟竣工)
- 2018 経営理念を改定

- 2019 企業変革プラン「Transform Olympus」/経営戦略発表
- 2021 映像事業を譲渡、オランダQuest Photonic Devices社、イスラエルMedi-Tate社を買収、医療分野における戦略的な方針を発表
- 2022 英国Odin Vision社を買収
- 2023 科学事業を譲渡、経営戦略発表

事業ポートフォリオの変遷

医療分野

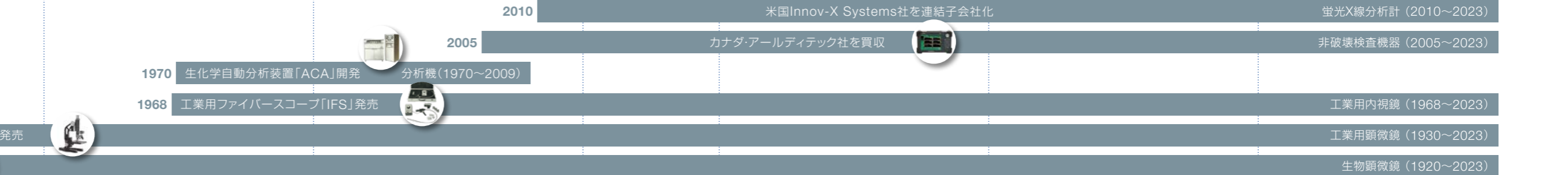
医療分野の歴史はこちらをご覧ください。
<https://www.olympus.co.jp/ir/data/medical.html>



科学関連

1930 工業用顕微鏡「MC」発売

1920 顕微鏡「旭号」発売



映像関連

1936 カメラ「セミオリンパス」発売



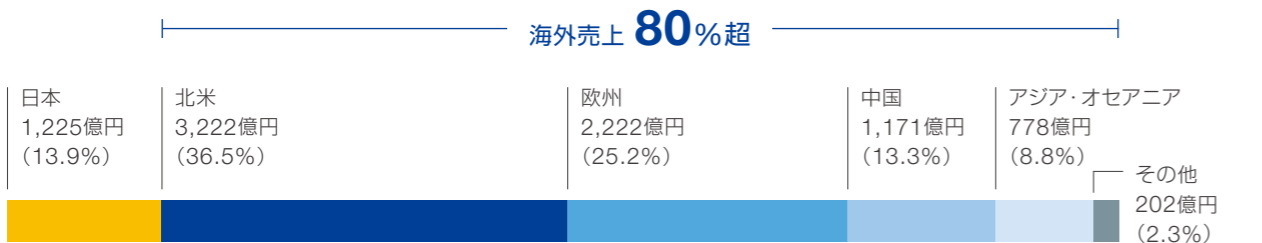
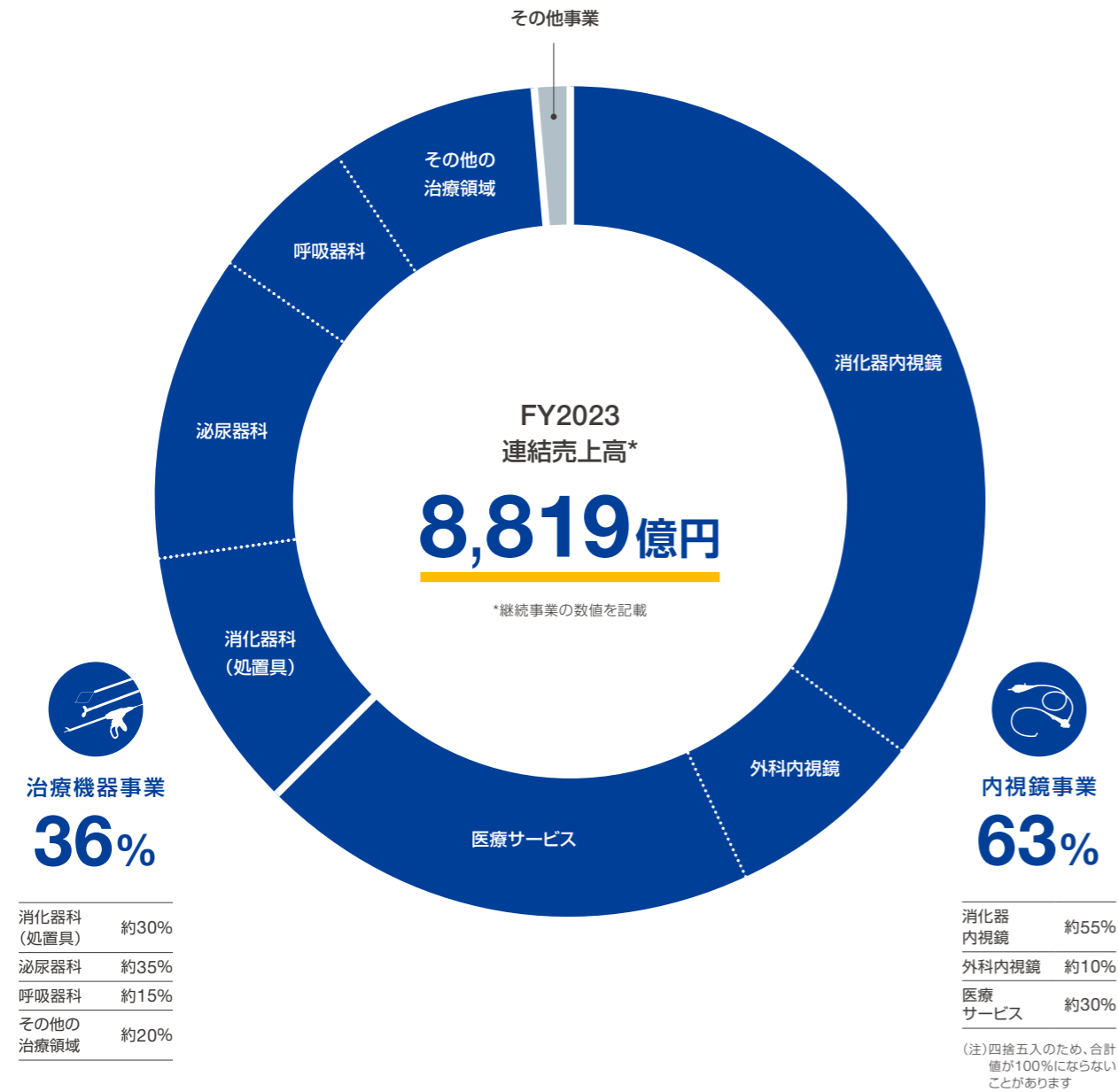
その他

1987 光磁気ディスク装置「MODEL ME-D5010E」開発

1985 プリンター「CIE-3000」開発



At a Glance



医療分野



内視鏡事業は、医療分野における革新的な技術と製造技術で医療従事者の皆さまと共に歩んでまいりました。診断そして低侵襲治療において、より良い臨床結果を生み、医療経済にベネフィットをもたらす、世界の人々の健康やQOL向上に貢献してまいります。1950年に世界で初めてガストロカメラを実用化して以来、オリンパスの内視鏡事業は成長を続けており、現在では、軟性内視鏡、硬性鏡、ビデオイメージングシステムから、システムインテグレーション、修理サービスに至るまで、さまざまな製品・サービスで医療に貢献しています。



治療機器事業は、医療分野における革新的な技術と製造技術で医療従事者の皆さまと共に歩んでまいりました。診断そして低侵襲治療において、より良い臨床結果を生み、医療経済にベネフィットをもたらす、世界の人々の健康やQOL向上に貢献してまいります。ポリプ切除用のスネア開発に始まり、外科用デバイスの開発や処置具のラインアップ拡充などを経て、さまざまな製品が疾患の予防、診断、治療に役立っています。

その他事業



その他事業は、人工骨補填材等の生体材料、整形外科用器具などの開発・製造・販売等を行っているほか、新規事業に関する研究開発や探索活動に取り組んでいます。

当社が提供する2つの価値

早期診断

- 当社の主力製品である消化器内視鏡は、病変の発見・診断・治療の質や検査効率の向上を目指した技術を搭載することで、がんなどの消化器疾患の病変を初期の段階で発見することに貢献しています。
- また、観察中に疑わしい病変が見つかった場合には、その部位を採取して病理検査を行うことが可能です。
- 最近では、内視鏡の拡大機能により、組織を傷つけることなく、その場で拡大画像から確定診断を行える可能性も期待されています。

低侵襲治療

- 消化器内視鏡は治療用の処置具とともに使用することで、早期がんの治療をはじめとして、ポリプ切除、誤飲した異物の摘出など、さまざまな治療を行うこともできます。
- 泌尿器分野では、高齢化の進展に伴い増加が予想されている前立腺肥大症の治療機器として、切除手術なしでクリニックでも治療ができる機器を展開しています。患者さんの体内に異物が残存しない低侵襲な治療方法です。
- また、内視鏡を用いた外科手術(腹腔鏡手術)では、従来の開腹手術のようにおなかを大きく切る必要がなく、患者さんの感じる術後の痛みが少なく済むといわれており、入院期間の短縮や早期の社会復帰に貢献するなど、さまざまなメリットがあります。

Our Products

内視鏡事業

消化器内視鏡

内視鏡を自然開口部(口、鼻、肛門)から消化器に挿入し、観察・診断を行うための製品群

消化器内視鏡システム



消化器内視鏡ビデオスコープシステム

スコープ(軟性鏡)



軟性鏡

先端部分が曲がる特性を活かし、口や鼻等から挿入して器官の中等を自在に検査・治療することに適しています

洗浄消毒(リプロセス)



内視鏡洗浄消毒装置

外科内視鏡

外科手術の際、内視鏡を主に体表に開けた小孔から腹腔内へと差し込み、腔内の状態を確認するための製品群および手術用顕微鏡システム

外科内視鏡システム



外科手術用内視鏡システム

スコープ(硬性鏡、ビデオスコープ)



硬性鏡

3D先端湾曲ビデオスコープ

3D機能を有した先端湾曲機能付き外科手術用ビデオスコープ。腹腔内に挿入し多方向から体腔内を3D観察することが可能

手術用顕微鏡システム



手術用顕微鏡システム

4K3Dのデジタル画像を55インチ大型モニターに映し出すことで立体視での外科手術をサポート

医療サービス

内視鏡システムの修理・サービス契約

一般修理

- 各地域の修理拠点での修理
- フィールドサービスによる施設における修理(洗浄機などの設置型機器の場合)

サービス契約

- 単年あるいは複数年の契約
- 修理金額の全額あるいは一部金額の補償
- 故障品修理時の代替品優先提供
- 故障予防教育の提供
- その他、各種サービスを包括的に提供



リペアセンター

Focus Area

カスタマーソリューション*1

消化器および外科手技に関連する臨床・業務ワークフローのデジタル医療ソリューション

インテリジェント内視鏡医療エコシステム
オペレーティング・ソフトウェアプラットフォーム



病院システムと統合して、臨床、管理、安全性、品質管理の強化をサポートするAIサポートソフトウェアプラットフォーム

AIによるインサイトと検出/診断支援



手術室システム
インテグレーション



*1 開示上、カスタマーソリューションの業績は外科内視鏡に分類されます

治療機器事業

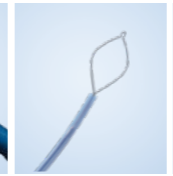
消化器科(処置具)

軟性鏡の鉗子チャンネルに挿通し、内視鏡下のさまざまな処置に用いる製品群。患者さんの身体表面に切開や小孔を加えずに組織採取や病変の切除・止血が可能です

処置具



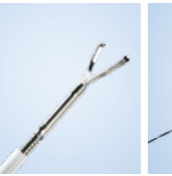
生検鉗子



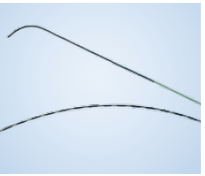
高周波スネア



高周波ナイフ



止血クリップ



ガイドワイヤ



パピロトーム

泌尿器科

経尿道的または経皮的に内視鏡を挿入し、尿道、前立腺、膀胱、尿管、腎臓の観察・診断・治療を行うための泌尿器科製品群。また、経腔的に内視鏡を挿入し、子宮の観察・診断・治療を行うための婦人科製品群

スコープ



泌尿器用ビデオスコープ



硬性膀胱鏡



PLASMA+システム



前立腺肥大症低侵襲治療デバイス*2



ツリウムファイバーレーザー装置*2

治療デバイス

呼吸器科

口・鼻から内視鏡を挿入し、気管や気管支の観察・診断・治療を行うための製品群

スコープ



呼吸器用ビデオスコープ



生検鉗子



バルブ*2

その他の治療領域

耳鼻咽喉科

鼻・口・耳から内視鏡を挿入し、鼻腔・口腔・咽頭・喉頭・耳の観察・診断・治療を行うための製品群

サージカルデバイス

エネルギーデバイス等、外科手術で組織の切開等の治療行為を行うための製品群

*2 2023年9月末時点で医薬品医療機器等法未承認品です